

風 窓 會 報

発行：東京都立大学
附属高等学校同窓会
〒152-0023東京都目黒区八雲1-1-2
発行人：内野滋雄
編集：同窓会報編集委員会

伝統・校風

理事長 内野滋雄

都立大学附属高校は平成二十二年に最後の入学生を迎え、その生徒諸君が卒業する平成二十三年に終止符を打つことになる。

校旗・校歌・校章を受け継いだ東京都立桜修館中等教育学校は、平成二十四年に一期生が出る。

都立の伝統は「自由と自治」「真理の探究」と言われる。それは我が校の前身、旧制府立高等学校の初代校長川田正激先生の理念「英国イートン校の教育方針である英国風の格調高い人物養成を軸

に、日本の高等学校の伝統とする自由と正義を重んじ、真理を愛好する自主的な高校精神」に基づいたものである。

川田校長の教育方針で特異なものは、たとえ身体障害者であっても入学試験に合格した者は入学を許可された点である。

これは全国の高校の中で我が校だけであった。この差別のない人間愛も極めてすばらしい伝統なのである。

昭和十九年当時の佐々木順三校長は、軍国主義に阿ることなく「戦争は終わる。学問は自由な発想で行うもの。ひたすら学問に励み、真理の探究に努めるよう」と説かれた。そして「高校アカデミズム」は「文化運動の政治化の否定」であると

の風潮もあった。

当時の記念祭歌には自由を求めファシズムの嵐を念頭に置いたものが多

ている。
内容は「佐々木校長の朝礼の講話がマイクもない静かな話しぶりにも拘らずよく聞きとれた。それは退屈した連中の私語が起きると誰かが必ず『しーっ』と制止しよとの静寂が戻る。これが高等学校であり、紳士の作法であり自治の表れ」である。

自己責任のもと、自由な発想と行動、学問に励み、真理を探究する姿勢、それらは今も続いていると思う。附属高校と桜修館との合同の記念祭を見てもそれを感じることが出来る。

ヒューマニティに満ちた、民主的な良い伝統の中で私共は人間形成を含めて育ってきた。「自由と自治」の表現は違っても自由と精気に溢れた校風は残して欲しいと願っている。

日々新たな出発

東京都立大学附属高等学校 校長 石坂康倫

一、学校の現状

私は、平成十七年度より、東京都立大学附属高等学校と東京都立桜修館中等教育学校の校長を兼務させていただいております。

平成十八年度に中等教育学校の第一期生を迎えるにあたり、多くの学校関係者のお力添えをいただきました。この場をお借りして御礼申し上げます。

平成十九年度には第二期生を迎えることができました。そして、平成二十年度には中等教育学校前期課程三年生と高校三年生が揃うことになり、学校はますます活気づく状態になりそうです。そんな状況の中、都立大学附属高等学校の同窓生や府立高等学校の同窓生が両校ともに応援をしてくださっております。

更に、父母会が作成して

くださった素案をもとに、高校の保護者と中等教育学校の保護者が協力して、「保護者と教職員の間」を発足し、とても良い関係で新しいPTAづくりがスタートしております。五月二十六日(土)には、これまで

にない参加数の総会が開催され、無事に終了することができました。

自画自賛になりますが本校はたいしたものです。生徒、教員、行政職員の連携と協力が積極的に進められ、当初私が掲げた中等教育学校の発展と高校の更なる前進が実現できる状況になっております。高校では教科・科目の学習の充実と進路実現、校風である「自由と自治」のもとに築かれる責任ある活動が、内部からも外部からも評価されています。

同窓生の期待に応えられるよう、日々新たな出発の気概で両校の発展のために頑張りたいと思います。

二、教員の異動状況
転出(氏名、担任、転入先)
小宮徳健(保健体育) 教育庁指導部
森 慎一郎(国語) 都立田柄高校
亀山美智子(実習助手) 都立板橋高校
川村恵一(英語) 都立桜町高校
転入(氏名、担任、転入元)
池田克則(保健体育) 都立小金井北高校
平野真規(国語) 新規採用
菊谷和正(数学) 都立神代高校
横江直樹(実習助手) 都立砧工業高校
相原弘明(英語) 都立雪谷高校

沼津寮72年の歴史に幕

—沼津寮閉寮式とその後—
根岸之夫 (21期・父母会理事)

母校の桜修館への改編に伴い、(社)東京都立大学附属高等学校父母会は解散を余儀なくされ、沼津寮の処分を検討していたことは既報の通りですが、沼津市への寄付を最優先に話を進め、更地として寄付を受けるとの内諾を得たことから、寮取り壊しを前に閉寮式を行いました。

平成18年11月23日、小雨の朝でしたが40余名の参加者が寮に到着する頃には薄日がさすまでに回復し、有終の美を飾るに相応しい感動的な閉寮式を行うことができました。(写真)

さらに沼津市の快諾を得記念碑を設置する事とし、3月25日建立式を行いました。

また3月末の解散許可を受け5月公告、7月19日には沼津市に寮跡地を寄附、同30日には目黒区に残余現金を寄附するなど清算作業も最終段階となっています。

万を越す卒業生の思いを測ると忸怩たるものもありますが、幾多のご支援ご鞭撻に、感謝とともに厚く御礼申し上げます。



昨年の「第58回記念祭」レポートと今年の「第59回記念祭」のお知らせ

根岸之夫 (21期)

第58回記念祭は、昨年9月9日・10日の二日間にわたって行われました。

天候にも恵まれ、クラス、部活、サークルの劇、模擬店、展示など、40を超える努力と汗の結晶が来訪者に披露されました。

今回は明らかに小学生と見られる見学者の増加が前年に比べて著しく、これも「桜修館効果」ということでしょうか。

さて今年の記念祭は、来る9月8日(土)、9日(日)の両日開催されます。

生徒の頑張りがどのような形となるか、さらにこの一年八雲の学び舎で育まれた中学2年生が、どんなパフォーマンスを見せてくれるか楽しみです。

また、我々母校主催の記念祭が見られるのは、おそらくあと3回限り!! 皆様お誘い合わせの上ご来校ください。

尚、B棟3階のPTA主催「お休み処 ほんとタイム」には、お茶等の用意もごさいますので、待ち合わせ場所としてご利用ください。

特集 思い出の部活動 連載: Vol. 1

原稿募集: 「思い出の部活動」を毎号連載しますので、部・サークル・同好会の、歴史・現状などの原稿を募集します。
 締め切り: 毎年6月30日、本文: 400字程度 送り先: 〒158-0084 世田谷区東玉川2-3-15 野口貞義方 同窓会報編集室

水泳部と黒潮会

小林紳也
 (4期・前黒潮会会長)

黒潮会は、府立高校時代のOBから、都立大学附属高校の水泳部に在籍している現役までを会員とした集まりです。会員相互の親睦を計り併せて都大附校水泳部の発展を支援することを目的としています。

この会の活動は、総会、会誌「黒潮」、近年立ち上げたホームページ「黒潮会」が主になっています。総会は例年夏の暑い日にプールサイドに集まって行うのが通例です。その年の活動報告など、必要な報告、取り決めを行った後に、老いも若きも一緒に、なつてレースに興じます。

小生が在籍していた昭和26、29年には、昭和10



和やかな総会で、高品会長以下参加者総勢47人、年に一度の会合を大いに楽しみました。プールサイドでの総会の後、駅前の居酒屋で(現役の皆さんにはご遠慮願いましたが)老若男女を超えた話に皆さん盛り上がりました。この総会後の集まりもこの2年程度着しつつあります。

「美研」と「八雲展」

清水英雄 (4期)

「美研」はもちろん美術研究会の略称だが、これは新制になってからの名称である。旧制の頃は「絵画班」次に「美術部」と呼んでいたようである。

同窓会としての「美研」の大きな活動は、その旧制時代の「美術部」のOBと共に、年一回の展覧会「八雲展」を開催していることである。

この「八雲展」の第1回は一九七九年に遡る。その年、府立高等学校創立50周年を記念して、旧制の卒業生を主体にして始められた。学校創立以来美術を担当された松岡正雄先生がまだ元気な頃で、先生は新制になってからも引き続き美術を受け持つ



併せて、都立大学の卒業生へも声を掛けた。その結果、年毎に新しいメンバーの参加が増えている。それでもまだ一番若い人でも30代後半、もっと若い多数の卒業生の参加を望んでいる。今年の「八雲展」は、大崎ニューシテイ内の「O美術館」で、5月18日から23日まで開催、その一夕には出品者を中心に総会を兼ねた懇親会も催され、年齢幅50年

が和気あいあいというひとときを過ごした。そして会期中を通して千人を超える入場者を数える盛況だった。

来年もほぼ同じ時期に同じ会場で行う予定。「美研」のOB、「美研」に限らず美術に関心のある卒業生、来年の参加を待っている。

「八雲展」事務局:
 Tel & Fax 042-472-1015
 E-mail: marikos@tdion.ne.jp

学生演劇の草創期

堀内茂男 (2期)

一九五十年頃、まだ飢えが日常の一部だった日本で、先ず精神的飢餓の克服を目ざす動きが、全国、あらゆる分野で澎湃として起こりました。

文化的鎖国状態だった日本に、欧米の新しい文学がどとど流入した事が、刺激になっていったと思います。人間探求の集団的活動として、広い支持を得る事



写真:堀内茂男さんの名作「市場」。右は主役の一人森英世さん(2期) 私達が、同じく卒業後、劇団「マスカラ」を旗揚げしたのは自然な流れでした。目ざしたのは、翻訳劇一辺倒の時代に、創作劇上演の場を作る事と、詩劇の現代的可能性を追求する事でした。ほぼ10年間続いた劇団の原点は、本校の演劇活動の中にあつたのです。

都立放送研究会の生い立ち

八木信忠 (4期)

旧制から新制高校に変わった昭和24年にさかのぼる。木造の新制高校専用の校舎が新しく建設された。生徒は旧尋常科から移籍した2年生と1年生のみ。演劇活動に熱心なグループがあった。旧制時代から受け継がれている記念祭には必ず演劇が上演された。



一年に一度の記念祭の発表では、演劇に対する情熱を維持するには周期が長すぎる。さりとて発表する場がない。こんなフラストレーションの中でラジオドラマならという考えが浮かんだ。

校舎の各教室に学校放送設備を設置する話が進行していた。有志が担当の片山徹先生に、学校放送の日々のオペレーション及びアナウンス等は我々がいたしますように話をもちかけ許可された。放送にはどうしてもアナウンスルームが必要であるとのこと、小さな放送室が出来上がった。

製作の腕を持った仲間も集まってきた。ただしこの時代、放送研究会の会員名簿とか部費の徴収とかいったものはなかった。放送室に常駐するものもいたが、何かあると集まる客分のような仲間もいた。

記念祭でラジオドラマ上演、高等学校ラジオドラマコンクールに出場、受賞するなど年々活発に活動発展していった。協力：山際忠正、高橋 望、長浜幸郎、写真提供：田中誠一郎

伝統のクラブ「音智」

清水孝彦 (11期・音智リーダー)

「大きなノッポの古時計」ならぬ「大きな古めかしいグランドピアノ」の周りに集う夢多き青春の群像：こんなイメージのクラブが「音智」であった。

事実、一学年150名中の1割以上の仲間達（私の同期は20数名であった）が挙って入部していたのも、その伝統ある魅力がなされたのである。合唱というフィルタを通しての良さ仲間達との語りや、尽きぬ議論（それは公私に亘る人生論であり、芸術・恋愛論であり、社会・政治問題でもあった）はこのクラブを置いてはとて経験することには出来ないものであった。

そしてそれは「夢と悩み多き思春期の若者達」として格好の「やすらぎの場」でもあったのである。

昭和二十年夏。この年の春入学した尋常科一年生が援農隊や疎開から解放されて帰京、年が改まってようやく学校らしくなる。東京は焼土と化し、鉄道も荒廃して、戦災で焼けた車両をタタキ直し不足を補いながら運行した。一年生の中には、のりもの好きが何人かいて、都立大学駅・学芸大学駅間の東急碑文谷工場（現

ある。今でも音智の先輩・後輩達は合唱の指導者となり、はたまた、自身も還暦はおろか古希を迎える方々が現役として合唱団、合奏団、音楽関連の組織などで大活躍しているの

は何ともうれしい話である。先輩後輩との大交流会はもとより、同期会、各世代を超えた忘年会・新年会などその仲間達の絆は、昔と変わらず今なお健在である。

「機研」が芽生えた頃

水谷洋泰 (1期)

敗戦。日本は大敗した。昭和二十年夏。この年の春入学した尋常科一年生が援農隊や疎開から解放されて帰京、年が改まってようやく学校らしくなる。東京は焼土と化し、鉄道も荒廃して、戦災で焼けた車両をタタキ直し不足を補いながら運行した。一年生の中には、のりもの好きが何人かいて、都立大学駅・学芸大学駅間の東急碑文谷工場（現

在はゴルフ練習場）へタタキ直し工事を、連れだつて見物に思い始めた。さらに、図工の松岡正雄先生に、模型工作用具の使用許可をいただき、工作室で語り合うようになる。「機研」の種（たね）の時代である。

昨年（19）に続き同じ会場で開催。機研に在籍された方には9月に正式な案内をお送りします。問い合わせ先：野口 貞義 Tel.03-3720-6007

「機研OBの懇親会」

予 告

日時：平成19年10月20日(土) 午後3時～5時 会場：めぐろ区民キャンパス 「シエ松尾」

鉄道模型の仲間たちも、より広く技術に親しもうと、「機械技術研究会」を旗揚げした。こうして「機研」が発芽したのである。機研OBは、昨十八年秋、都立跡地の目黒区民キャンパスに一期―二期の約四十名が集合。欲談して今後の交流を約束した。

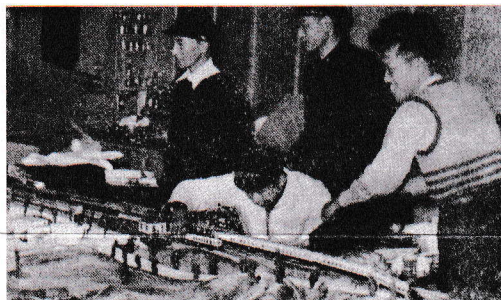
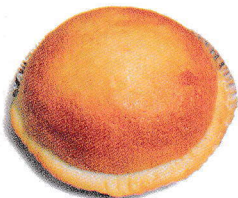
お世話になったお店：その2 サンロード「旭ベーカリー」



100分授業を2科目終えた昼休みは、「更科」の蕎麦か「旭ベーカリー」のコッペパン。帰り道は旭ベーカリーの菓子パンか、坂を下った左側にあった「福々まんじゅう」が定番だった昭和20～30年代。更科とともに、「アサベ」と呼ばれて親しまれた「旭ベーカリー」さんにも随分お世話になりました。

前身の文房具店が進駐軍からパンの配給所に指定され、パン屋としての創業は終戦の翌年、昭和21年6月。創業者の宮崎一さんが、「旭日」という言葉から「旭ベーカリー」を屋号に、サブに「サンロード」を付け、今は二代目の仁孝（まさたか）さんが後を継ぎ盛業中です。

なにしろ通用門の正面にあることから、部活の帰りや、大学の講堂で開かれた生徒大会が跳ねた後などは大混雑だったとか。旭ベーカリーの名物は、UFOを模して20年前に創作した「サンロード」(写真)95円だ。



写真提供：(株)機芸出版社「鉄道模型趣味」



同窓会への連絡は

住所変更、住所表示の変更など、同窓会へのご連絡は「郵便」で、左記までお送りください。〒152-0023 目黒区八雲1-1-2 東京都立大学 附属高等学校同窓会

活発な、同期会・クラス会・同好会レポート

「第125回
都高会ゴルフ」

期日..

平成18年10月14日(土)

15日(日)

会場：湯元富士屋ホテル、
仙石ゴルフコース

参加者：13名、ゴルフ9名

本会は、昭和43年一、二期生で始まり、恩師網豊作先生と三期生も加わり、125回行われました。

70歳を過ぎると体調を崩される方が多くなり、コンへの成立が困難となりました。

元気なうちに、サヨナラパーティとゴルフをして会を終了し、お互いに、今後とも、健康でプレーを続けることを誓って解散しました。
(柴山雄一・記)



「5期生同期会」

日時..

平成19年5月13日(日)

会場：ひのや
参加者：44名
毎年開催。主幹事はクラス順の持ち回り。今回はC組。少々趣を変え、都立大学駅近くの座敷で和食の昼食会にしました。

初参加者の挨拶や物故者の追悼などと、思い思いの話題に賑やかで、アットホームな雰囲気集まりました。
(幹事C組・竹中哲太・記)



「9期生同期会」

日時：平成19年3月31日

会場：シェ松尾

参加者：約70名

三月末日、母校隣接のレストランに約70名が集い、和気藹々、入学半世紀を祝った。

恩師の喜多、早乙女両先生には、傘寿、喜寿のお祝いを贈呈した。

これに先立ち、母校の好意で、昔と様変りの校舎見学会を実施した。
(朱牟田静男・記)

舎見学会を実施した。

(朱牟田静男・記)



「第13期同期会」

日時..

平成18年9月30日(土)

午後2時～4時30分

会場..

ホテル

JALCITY田町

参加者：47名

数年前より毎年、クラス順送りの幹事で、毎年開催しております。

今回は、工藤先生にも御出席頂き、皆としばし



「16期G組クラス会」

日時..

平成19年2月3日(土)

会場：恵比寿「十利休」

参加者：23名

「還暦を前に一度集まりましょうよ」との呼び掛けで、4年ぶりのクラス会。久しぶりの顔にもお目にかかれて楽しかった。

二次会はカラオケで盛り上がりました。
(蓮井房子・記)



「17期C組クラス会」

日時..

平成19年9月29日(土)

午後5時から

会場：都立大跡地の「ブラスリーオペラシェ松尾」

幹事：深田公利、野村智義、平尾(木村)民子

案内通知が来てない場合は幹事の深田までご連絡をください。

電話&FAX:
045-974-0136

Email:
fukuda@sfs2-so-net.ne.jp

〒227-0052
横浜市青葉区梅丘19-26

「23期生同期会」

日時..

平成18年10月28日(土)

午後6時30分～9時

会場：青学会館

参加者：89名

卒業以来初めて合同の同期会を開催しました。

恩師の工藤好吉先生にご臨席いただきました。とてもお元気で今もスポーツ指導に汗を流していらっしゃるって聞いてびっくりいたしました。

今回の同期会を機に定期的に開催していきますので、次回も奮ってご参加ください。
今回の写真は



http://galopp.jp/tokou23/で見られます。
(小木真如・記)

ラ・ブラスリーオペラ シェ松尾

クラス会・同期会・部会は母校に隣接の当店にお任せ下さい。

☆オペラコース

1名様あたり 4,500円(税別) お料理7品

☆パーシモンコース

1名様あたり 5,500円(税別) お料理10品

☆スペシャルティコース

1名様あたり 7,000円(税別)

お料理9品+オペラ特製ローストビーフ

(シェフが目の前で分けてくれます)デザート・珈琲付

・いずれのコースも飲み放題付(ビール、ワイン、ウィスキー、ソフトドリンク)

・料理のみ(アルコール不要)のコースもあります。

・少人数様より立食80名様まで予約をお受けします。

詳しくはレストランまでお気軽にお問い合わせ下さい。

ラ・ブラスリーオペラ シェ松尾

東京都目黒区八雲1-1-1 めぐろ区民キャンパスプラザ1F

Tel: 03-5701-0828 宴会担当: 村田

お電話はレストラン営業時間内(11:00～21:00)にお願い致します。